

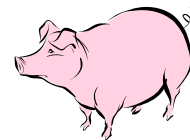
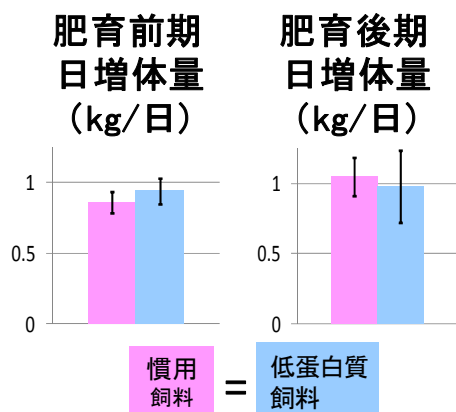
肥育豚への低蛋白質飼料導入の 温室効果ガス削減ポテンシャル評価

肥育豚に、飼料中のアミノ酸バランスを整えた低蛋白質飼料を給与することで、従来の飼料に比べ、生産性に影響なく、一酸化二窒素(N₂O、二酸化炭素の310倍の温室効果を有するガス)の発生を約40%削減できることを実証しました。この成果により、国内で初めて一酸化二窒素の排出削減量が「オフセット・クレジット(J-VER)制度」及び「国内クレジット制度」のクレジットとして認証され、カーボン・オフセットや排出権取引に利用することが可能になりました。

☆ 技術の概要

1. 地球規模で進む温暖化対策として、肥育豚への低蛋白質飼料の給与はふん尿中の窒素量を削減できるため温暖化防止対策にも有効と考えられてきました。しかし温室効果ガスの削減効果が検証されておらず、生産現場への導入が躊躇されています。
2. 農研機構畜産草地研究所は、家畜排せつ物から発生する温室効果ガスを精密に測定・評価する方法を開発し、新潟大学、群馬県畜産試験場、味の素(株)と共同して、肥育豚への低蛋白質飼料給与による温室効果ガス削減効果を評価、日本の一般的な養豚農家で導入されている家畜ふん尿管理条件では温室効果ガス発生を約40%削減できることを実証しました。

生産性は落とさず



家畜排せつ物処理 温室効果ガスは 低減

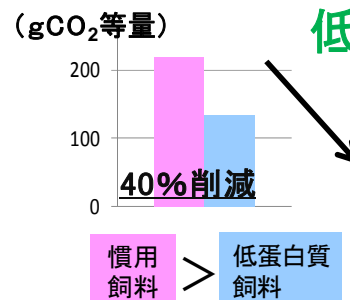


図1 低蛋白質飼料給与による肥育豚あたり温室効果ガス発生削減

☆ 活用面での留意点

1. オフセット・クレジット制度 方法論 (http://www.4cj.org/document/jver/meth_l001.pdf)
2. 詳細については、畜産草地研究所・情報広報課 (電話：029-838-8611、問い合わせフォーム <https://form.affrc.go.jp/nilgs-naro/inquiry/form.html>) にお問合せください。

((独)農研機構 畜産草地研究所 畜産環境研究領域 長田隆)